

科目No.	507	科目名	コミュニケーション学特論5		サブネーム	ワークライフバランスの実現とコミュニケーション (ダイバーシティ等を基礎とした柔軟な社会をめざして)
連携機関	内閣府	レベル	基礎	講義日時	木曜日 18:30~20:00	お茶の水女子大学
科目概要	近年、科学物質を始めとして企業におけるリスク管理が問題となっている中、ますます複雑化、高度化する企業等の活動を適切に遂行するためには、個人の能力を最大限発揮させる環境が必要であり、そのためには、組織が柔軟で働きやすいものであることが不可欠である。その意味で、ワークライフバランスは、単に個人の問題のみならず、企業・社会にとって有意義なものであるという視点が重要である。また、ワークライフバランスの背景には多様性を尊重するという考えがあるが、これは互いに立場の異なる人々との不断のコミュニケーションが重要となってくる。本講義においては、ワークライフバランスの実現のための諸要素やその背景となるダイバーシティの考え方をはじめ、ワークライフバランス社会の実現のための諸要素について理解を深める。企業や社会の能力向上(キャパシティー・ビルディング)は国際的にも科学物質総合管理に係わる最重要課題の一つとして位置づけられているほか、多様性やダイバーシティは生物総合管理の基礎をなす重要な概念となっている。					

サブタイトル	No.	講義名	講義概要	講義日	教室	講師名	所属
	1	ワーク・ライフ・バランス総論Ⅰ	本講座のガイダンスを行う。多様性やダイバーシティについて論じるとともに、ワークライフバランス推進全般に関する総括的な講義。	4月10日	共通講義棟 1号館301	板東久美子 佐藤博樹	内閣府男女共同参画局長 東京大学教授
	2	ワーク・ライフ・バランス総論Ⅱ	WLB推進によるウィン・ウィンの関係やWLB塾の取組の紹介等、引き続きWLB推進に関する総括的な講義を行う。	4月17日		脇坂 明	学習院大学教授
	3	欧米諸国におけるワーク・ライフ・バランス	オランダの状況を中心に、欧州諸国におけるワーク・ライフ・バランス推進の経緯及び現状等を紹介する。	4月24日		権丈英子	亜細亜大学准教授
	4	企業戦略におけるワーク・ライフ・バランスⅠ(ダイバーシティ)	ワークライフバランス社会の基底にある考え方としてダイバーシティ(多様性)の概念がある。本講義においては、ダイバーシティをマネジメント上の戦略課題として位置づけている企業の取組をテレワークの事例とともに紹介する。	5月15日		家本賢太郎	クララオンライン
	5	企業戦略におけるワーク・ライフ・バランスⅡ(新しい働き方)	企業におけるワークライフバランスの取組の事例として、新しい働き方を行っている企業の取組を紹介	5月22日		花田尚美	日本アイ・ビー・エム(株)
	6	企業戦略におけるワーク・ライフ・バランスⅢ(ファミリーフレンドリー企業)	子育て支援、ファミリーフレンドリーという観点からワークライフバランスに関する取組を行っている企業の事例を紹介する。	5月29日		山極清子	資生堂 参与
	7	グループワーク・ディスカッションⅠ	受講者間において、これまでの講義を参考にしつつ、グループディスカッションを行う	6月5日		栗田奈央子 安田 伸	内閣府男女共同参画局
	8	ワーク・ライフ・バランス推進のための取組Ⅰ(企業コンサルティング)	中小企業等のかかえるワークライフバランスに向けた取組に係る諸課題について紹介する。	6月12日		小室叔恵	ワークライフバランス社
	9	ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業・組織の評価	ワークライフバランスを推進にむけて創意工夫を重ねるインセンティブを与える観点から、企業等の取組を社会が評価することは重要。本講義においては、ワークライフバランスに係る企業の取組の評価等を行っている事例を紹介する。	6月19日		村上 文	21世紀職業財団
	10	ワーク・ライフ・バランス推進のための取組Ⅲ(父親参加)	ワークライフバランスは、女性のためだけでなく、今後、男女共同参画の進展に伴い女性が直面していた子育て等との両立支援等については、男性にとっても課題となる可能性がある。本講座では、特に子育てに関する父親の参画について紹介する。	6月26日		安藤哲也	NPOファザーリングジャパン
	11	ワーク・ライフ・バランス推進のための取組Ⅱ(保育)	保育所等の施設はある程度量的には増えたものの、子どもが病気の場合等緊急時の対応については、まだまだ悩みを抱えている人は多い。本講座においては、企業と連携して病児保育の事業を行っているNPOの取組を紹介する。	7月3日		駒崎弘樹	NPOフローレンス
	12	グループワーク・ディスカッションⅡ	受講者間において、これまでの講義を参考にしつつ、グループディスカッションを行う。	7月10日		山口一男	シカゴ大学教授
	13	働く男女の健康とワーク・ライフ・バランス	近年の成果主義の導入、市場のグローバル、人員削減等の労働環境の変化等により、メンタル面を含め、労働者の健康面が大きな問題となっている。本講義では、働き方が健康面に及ぼす影響等について紹介する。	7月17日		小島原 典子	東京女子医科大学
	14	ボランティア活動とワーク・ライフ・バランス	JICA青年海外協力隊の関係者の方に応募、参加する人達の状況等を話してもらい、実際に参加した人の話をワーク・ライフ・バランスに絡めて話して頂く。	7月24日		土谷和之 笹館孝一	国際青年環境NGO A SEED JAPAN 独立行政法人国際協力機構
	15	グループワーク・ディスカッションⅢ	本講座のまとめとしてワークライフバランス社会実現のため、あるいは個々の企業等におけるワークライフバランスにとって必要な方策や課題等について討議を行い、本講座のまとめとする。	7月31日		安田 伸 金児敦弘	内閣府男女共同参画局

2008/2/20 6月26日の日付け、5月22日の講義名、5月22日・6月5日・7月10日・7月31日の講師名及び所属の変更。2008/3/13 教室の記載。2008/4/1 6月26日の講義と7月3日の講義の入れ替え。2008/4/4 5月29日の講師の表示間違い修正。2008/4/30 講義No.4,8,9,11の講師名変更。2008/5/2 講義No.10及び11の入替え。講義No.5,7,12,14,15の講師名の変更。2008/5/16 講義No.14の講師の変更。2008/05/22 講義No.5講師名の訂正。2008/6/5 講義No.13講師及び所属の記載。2008/06/16 講義No.10及び講義No.11の入替え。2008/7/30 講義No.12(7月10日)及び講義No.15(7月31日)講師の変更。